

アジア国際社会福祉研究所 kara

No. 53. 2023.5.23.

編集・発行責任者 戸塚 法子

ソーシャルワーク研究の人材育成に貢献しています！

—2023 年度 VR に 9 か国から 10 名の応募—

アジア国際社会福祉研究所(ARIISW)は 2023 年度、第 8 期ビジティング・リサーチヤー(VR)論博プログラム(奨学金付き)について 4 月 1 日～5 月 10 日に公募しました。募集領域は国際ソーシャルワークと仏教ソーシャルワークで、9 か国から 10 名の応募をいただきました。本プログラムの目的はアジア太平洋地域の国々にあるソーシャルワーク大学等の教員・研究者の養成ニーズに応えることです。当研究所に最長 2 年間、奨学金付きで VR としてお迎えし、論文を完成していただきます。所定の条件を満たした VR は、淑徳大学大学院に論文博士申請者として推薦されます。論文の審査は淑徳大学大学院総合福祉研究科が行い、合格した VR には博士号(社会福祉学)が授与されます。これまで 3 名が博士号を取得されています。引き続き、学内外の様々な方々のお力添えもいただきながら貢献してまいります。

研究活動報告:ソーシャルワーク実践についての対話

国際ソーシャルワークにかかわる研究活動の一例を紹介します。2023 年 1 月 24 日に、スリランカの国立社会開発機関(NISD)とソーシャルワーカー専門職協会(SLAPSW)と共催し、「ソーシャルワークの知についての互惠的交流」に関するキックオフ会議¹を NISD にて開催しました。目的は、これまで十分に記録されていないソーシャルワーク関連の実践家の経験を共有し、実践知をともに探索することです。合計 18 名が参加しうち 7 名程度は実践家でした。

上記企画・実施を受けて、2023 年 5 月 12 日にバングラデシュにて、CSWPD 財団(代表ハビブ・ラアマン准教授)主宰の国際会議²の中で、ARIISW が「バングラデシュにおけるソーシャルワークの視点とスキル」に関するセッションを開催しました(座長:松尾研究員)。現地でセッションに参加したバングラデシュ、インドの参加者たちからは実践経験を国境を越えて共有する意義を深く感じたという感想が多く寄せられました。コロナ禍でオンラインが主流だった研究交流ですが、対面交流だからこそ生まれる新しい発見、新しい対話があります。

対話は緒についたばかりであり、今後の発展可能性を期待しています。2023 年度中にスリランカでの会議を NISD と SLAPSW とともに企画中です。



キックオフ会議 (1/24 スリランカ)



メインゲストと集合写真 (5/11 バングラデシュ)

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>

◆淑徳大学内では S ナビにて月 1 回程度配布されます。

¹ 本研究は JSPS 科研費 JP21K13477 (代表:東田全央)の助成を受けて実施しました。

² 第 6 回コミュニティ・トーク国際ソーシャルワークデー国際会議 (WSWD2023)